

2020.10.7

資料2

忠別川における河道の質的整備 に向けた検討ワーキング (第1回)

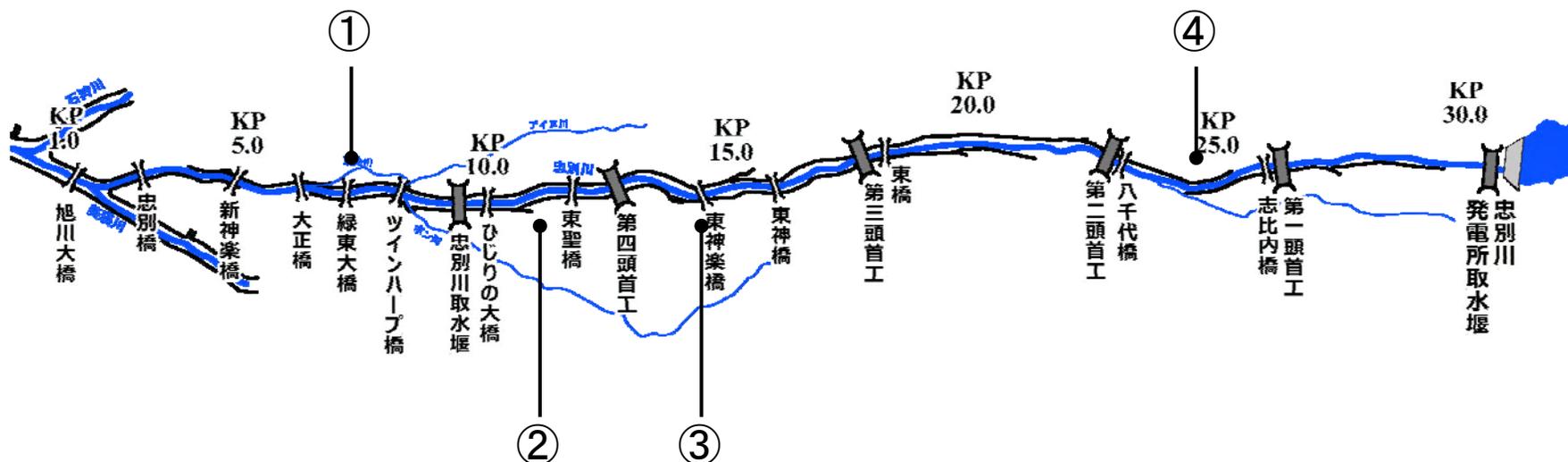
～ 現地視察資料 ～

《目次》

視察箇所	P2
忠別川の概要	P3
千代田地区(緑東大橋付近 KP7.2右岸)	P4
中央地区(KP10.4左岸)	P6
忠栄地区(H20・H21河道整正区間 KP14.2～15.4)	P8
東忠別地区(KP24.4～25.3右岸)	P14

旭川開発建設部

時間	番号	箇所
14:50	-	合同庁舎発
15:05	①	千代田地区(緑東大橋付近 KP7.4右岸)
15:35	②	中央地区(KP10.4左岸)
16:10	③	忠栄地区(東神楽橋付近 KP14.2)
16:35	④	東忠別地区(KP24.4~25.3右岸)
17:15	-	解散

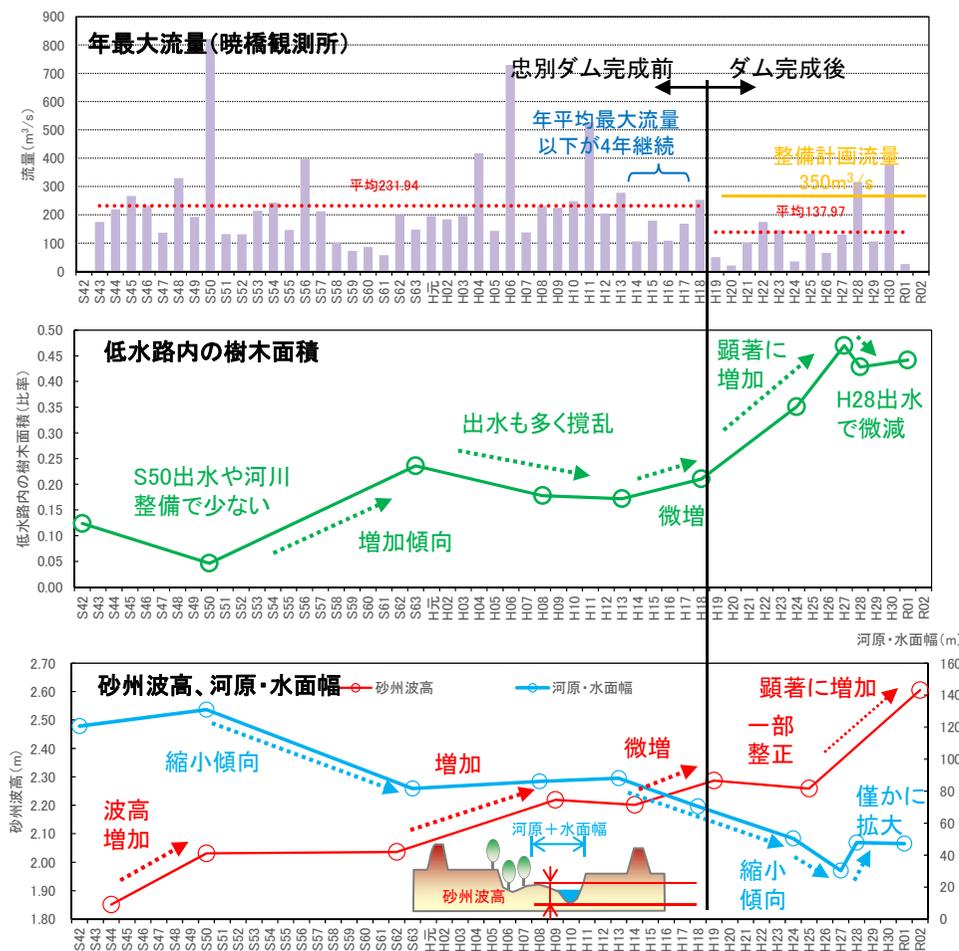


■ 忠別ダム完成後は、洪水調節効果を発揮している一方、中小洪水の減少や植生域の拡大などにより全川的に、**樹林化、二極化(滯筋固定化)**の傾向が強まっており、H28、H30の大きな出水を契機に「**河岸侵食**」が進行している。H30出水により被災したKP25.3と類似する箇所が多数存在、目標流量規模の超過実態(H30)等から、**河岸侵食対策は急務**である。

■ 現状では、樹林化、二極化に起因する**河岸侵食や堤防侵食の懸念**がある。

樹林化、二極化の経年変化

・樹木は、H13までは出水攪乱もあり樹木は増減、H14以降は年最大流量の減少もあり拡大
 ・砂州は、S50・H10頃に発達、以降は微増



※美瑛川合流点(KP2.4)より上流の平均値

河岸侵食の発生状況

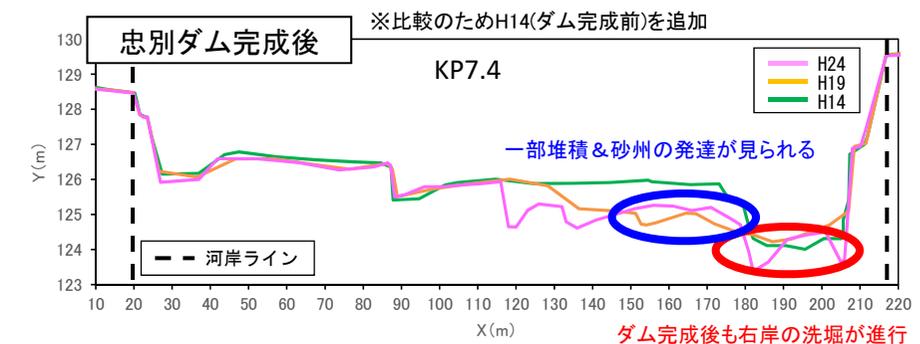
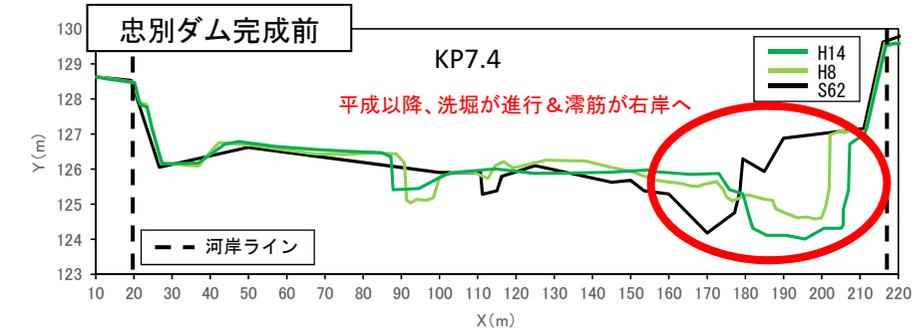
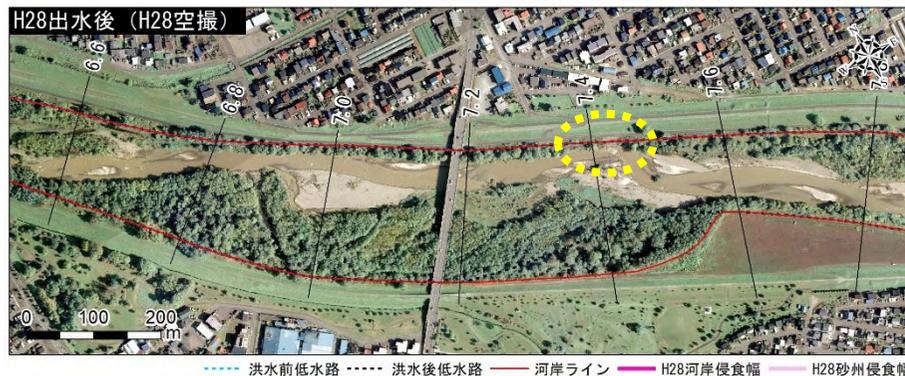
■ 低水恒久工法 --- 堤防防護ライン



千代田地区（緑東大橋付近 KP7.4右岸）

- H28出水による護岸損傷が発生
- 背後地が住宅地となっており、資産が集中している。

現況横断：H24横断



ダム完成後も右岸の洗堀が進行

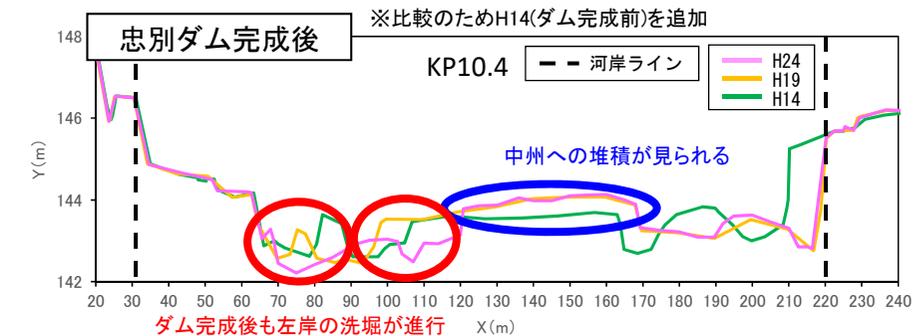
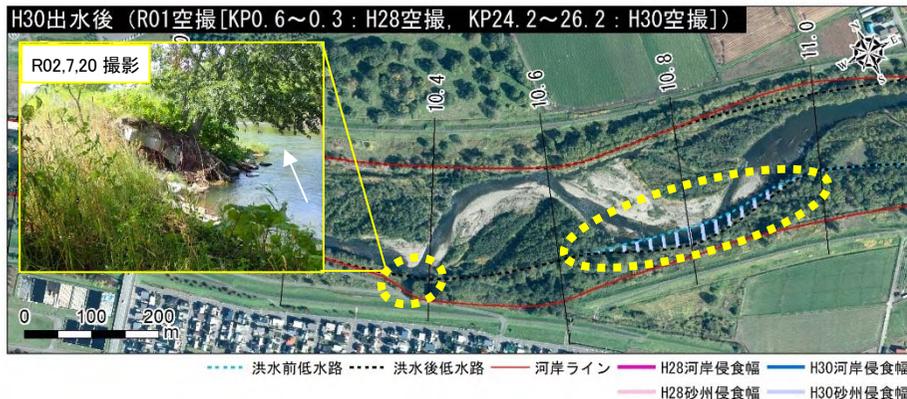
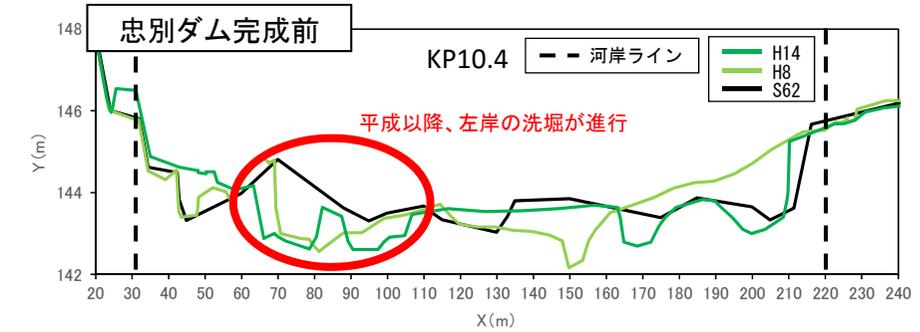
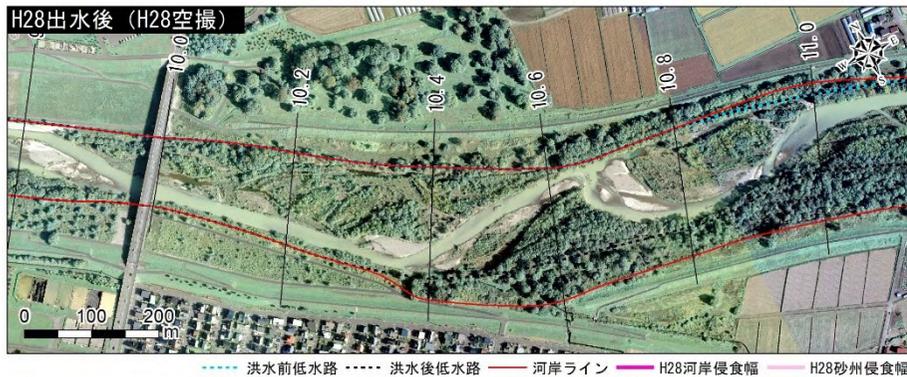
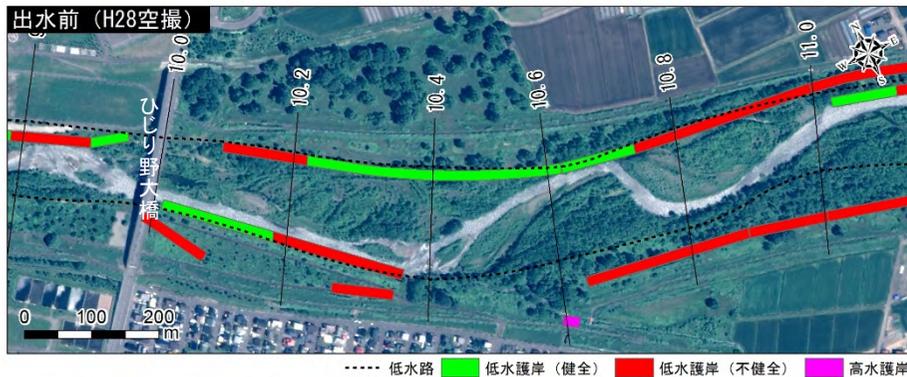
千代田地区（緑東大橋付近 KP7.4右岸）

- 斜め写真より、H20以降から当該箇所対岸側 (KP7.4左岸) の砂州の発達・滞筋固定化が進行している。
- H21時点で、KP7.4右岸が水衝部となるような、流向に対して鋭角な滞筋が形成されており、H28出水時に護岸が損傷。



中央地区 (KP10.4左岸)

- H30出水による河岸侵食が発生、上流部でもH30出水による砂州侵食が発生 (KP10.8左岸)
- 侵食部に該当する横断側線 : KP10.4 現況横断 : H24横断



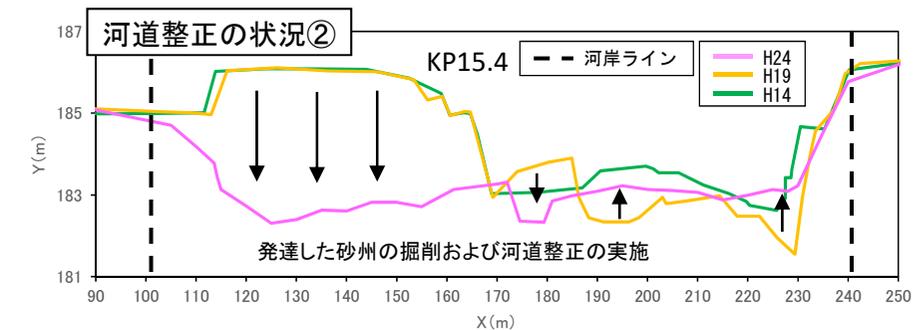
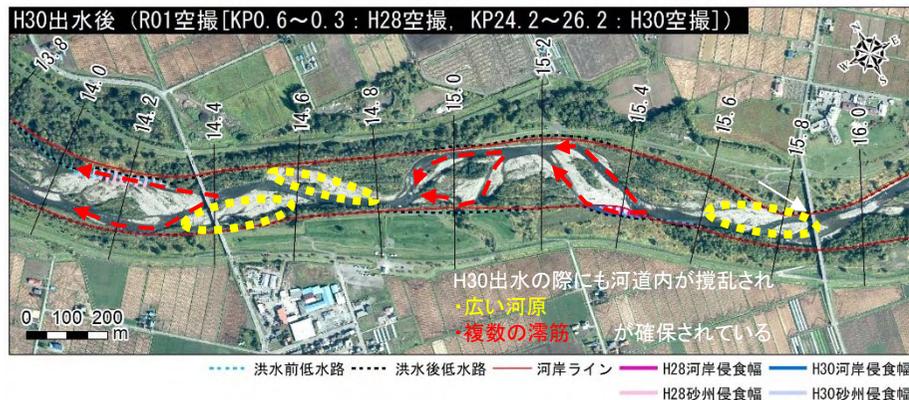
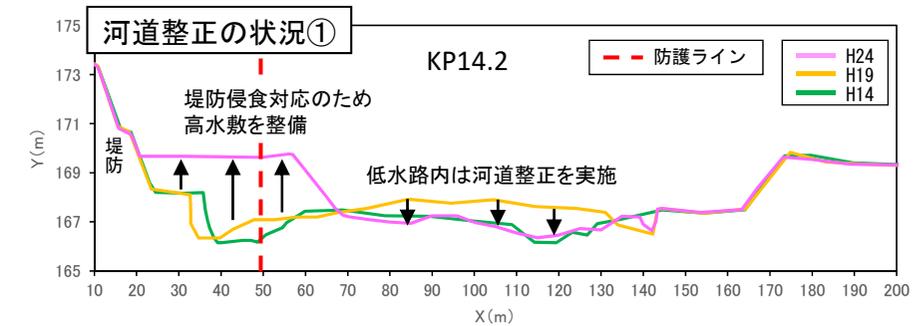
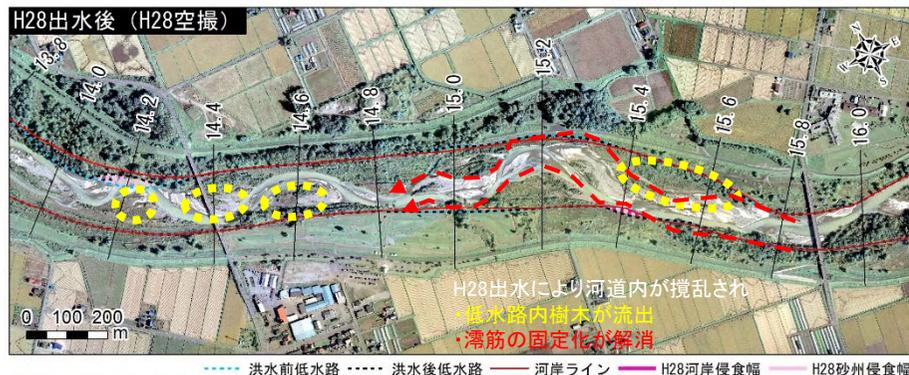
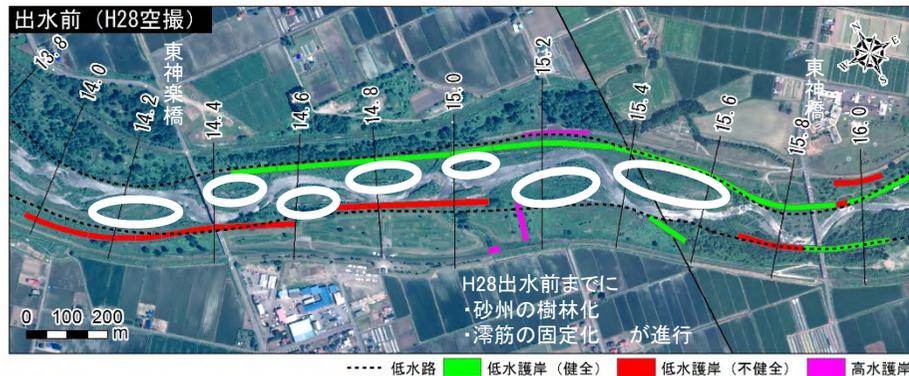
中央地区 (KP10.4左岸)

- 斜め写真より、H20以降から当該箇所対岸側の (KP10.4右岸) の砂州の発達・樹林化が進行している。
- 上記砂州の発達・樹林化に伴い、KP10.4左岸が水衝部となるような滞筋が形成されており、H30出水時に河岸侵食。



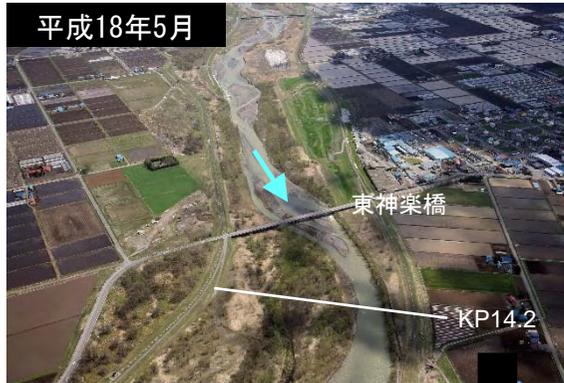
忠栄地区 (H20・H21河道整正区間 KP14.2~15.4)

- 当該区間ではH20・H21に河道整正を実施している。(詳細は後述)
- 河道整正後、H28出水前までに樹林化および滞筋固定化が進行していたが、H28出水時に河道内が攪乱されている。



忠栄地区 (H20・H21河道整正区間 KP14.2~15.4)

- KP14.2 (東神楽橋下流) では、H20に工事が行われ、左岸高水敷の造成・右岸河床の掘削が実施されている。
- H24以降に周辺砂州の発達および砂州対岸側が水衝部となる滞筋が形成されていくが、H28出水により河道内が攪乱され、砂州上の樹林化が解消されていることがわかる。



- KP15.4 (河道整正上流端) では、H21に工事が行われ、低水路幅が拡幅されている。
- H26以降に周辺砂州の発達および滞筋蛇行が進行するが、H28出水により河道内が攪乱され、樹木の流出および滞筋の固定化が解消されていることがわかる。



■河道整正区間（H20・H21）では、皿型の浅い河道であったこと、樹木繁茂直後で幼木であったこと等もあり、樹木攪乱が多く発生した。

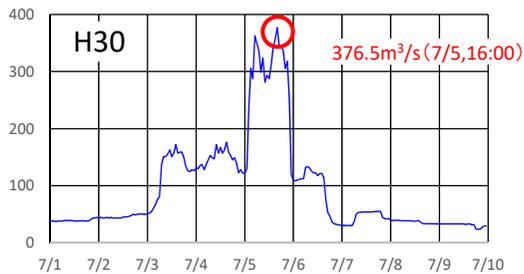
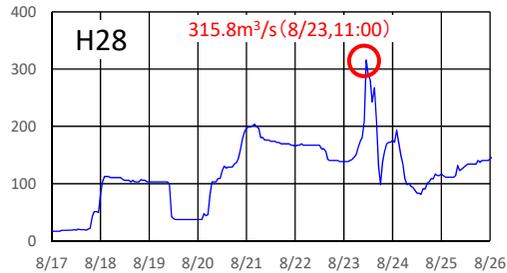
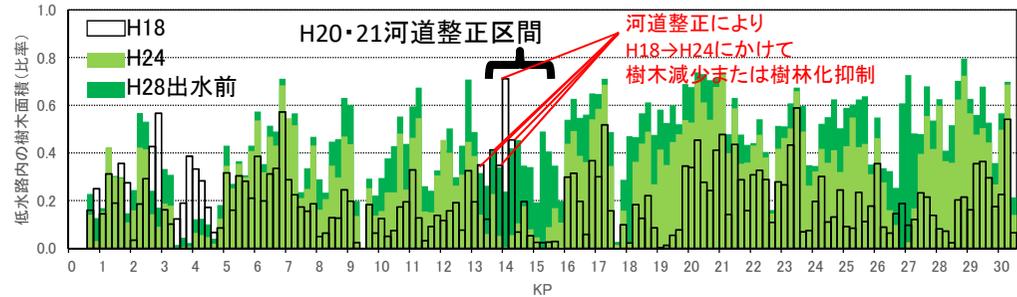


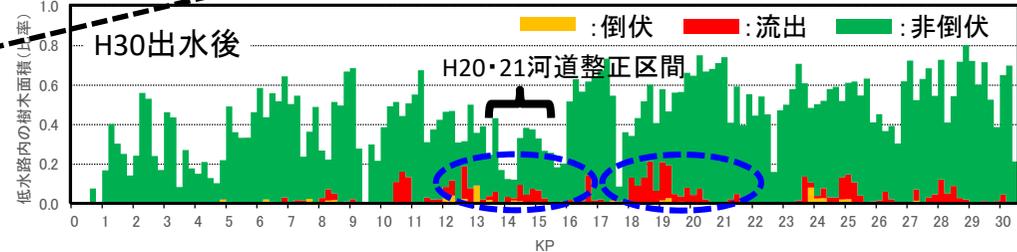
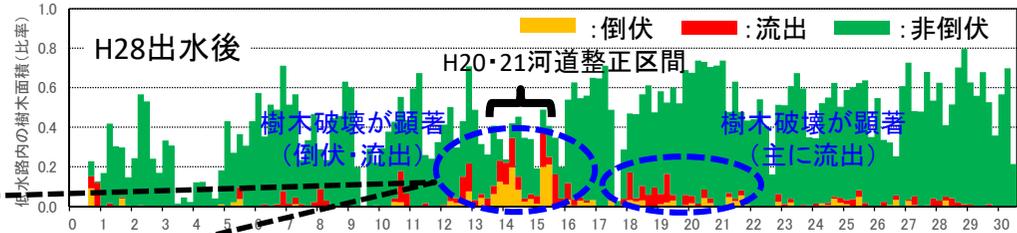
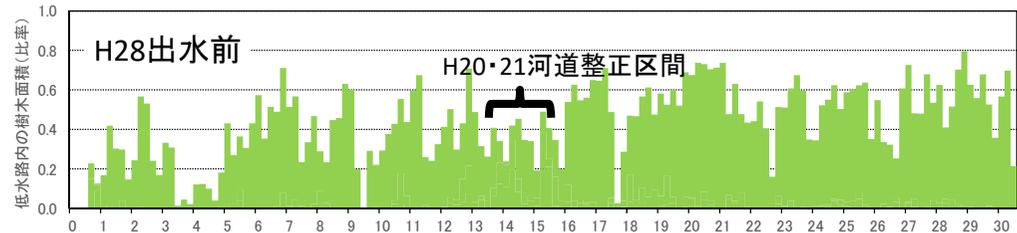
図 H28・H30出水ハイドロ



≪H28出水以前の低水路内樹木面積比≫



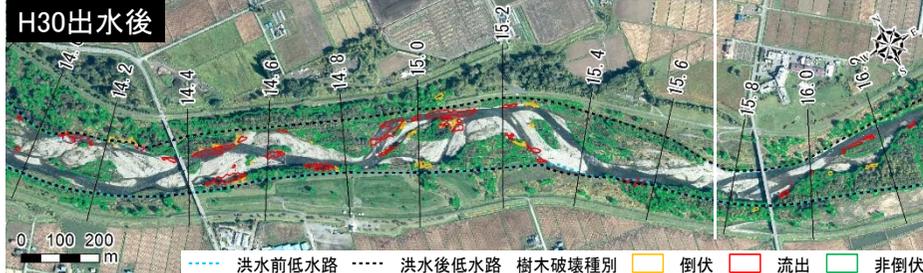
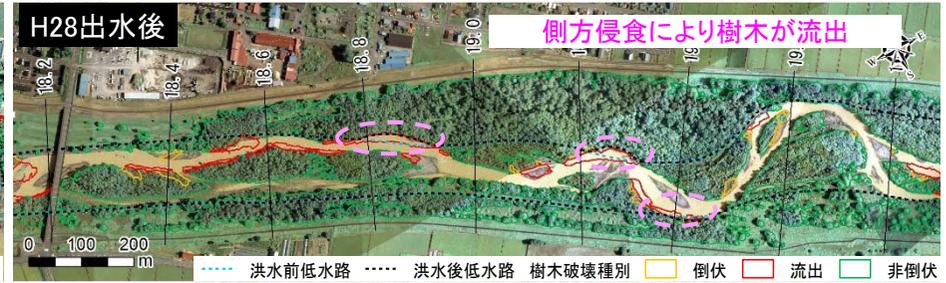
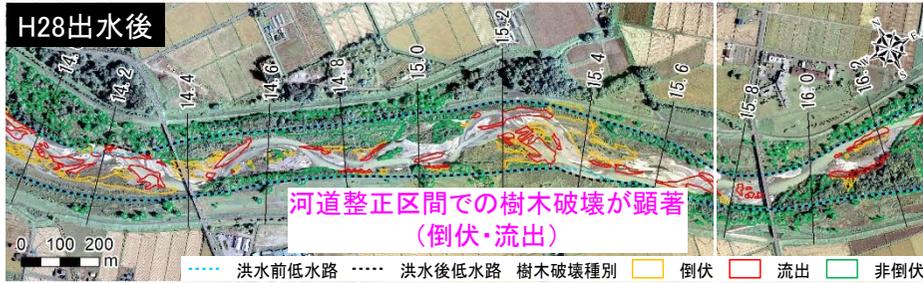
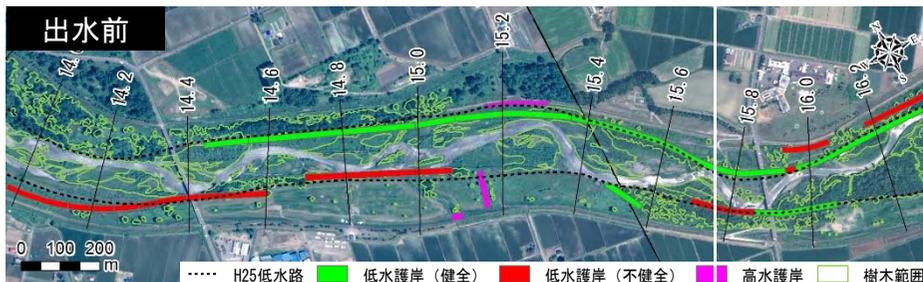
≪各出水による樹木破壊状況≫



《H28・H30出水時の樹木破壊箇所》 KP14.4~15.8

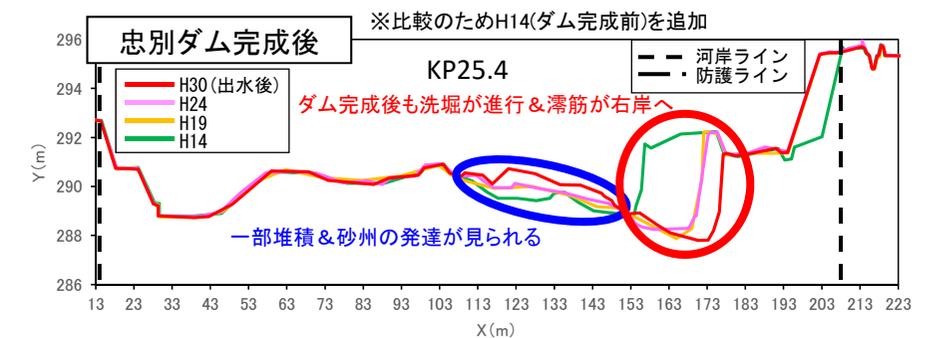
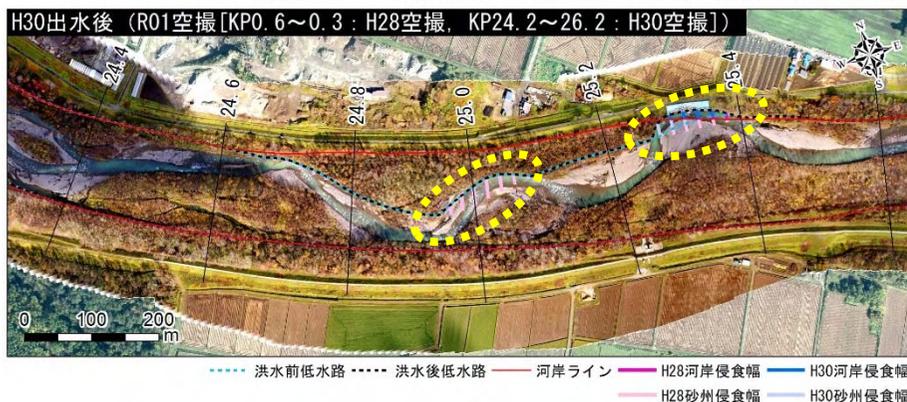
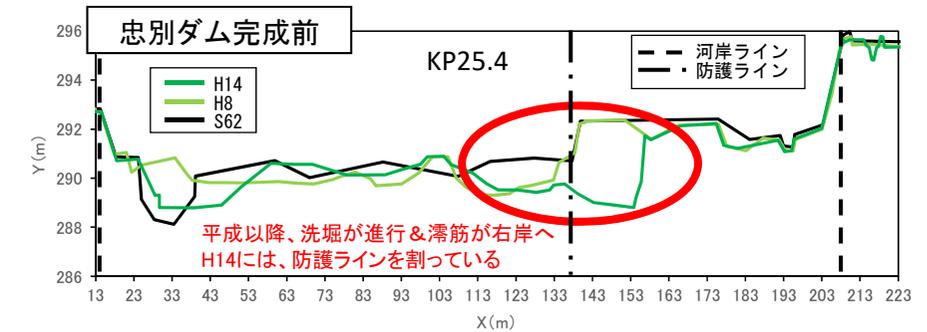
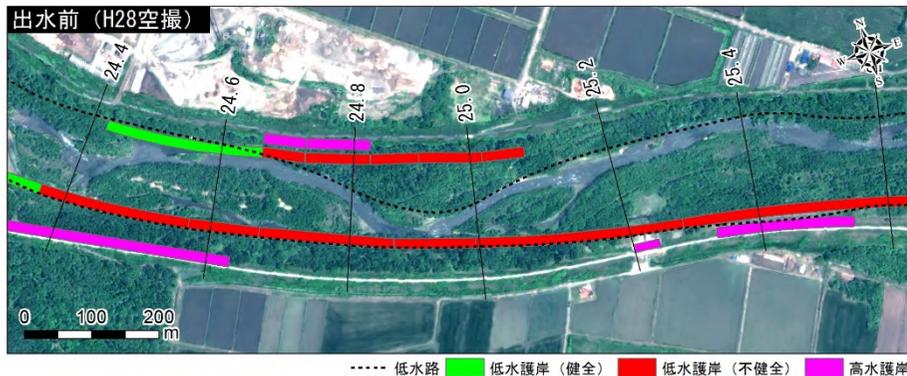


《H28・30出水時の樹木破壊箇所(別箇所)》 KP18.6~19.4



東忠別地区 (KP24.4~25.3右岸)

- H28・H30出水による砂州侵食 (KP25.0右岸周辺) および河岸侵食 (KP25.3右岸周辺) が発生
- 侵食部に該当する横断側線 : KP25.0 (砂州侵食) 現況横断 : KP24.6~25.0→H25横断、KP25.2~25.4→H30横断



- 斜め写真より、H20付近から当該箇所対岸側 (KP25.3左岸) の砂州の樹林化が進行しており、滞筋が固定化されている。
- 上記の砂州上樹木はH28出水時に若干流出したものの、滞筋固定化を解消するには至らず、H30出水時に河岸侵食発生。

